

琉球大学学術リポジトリ

日本の青少年において体力は学力に影響を与えるか？
個人内効果と個人間効果を二分したハイブリッドアプローチ

| | |
|-------|--|
| メタデータ | 言語: 出版者: 琉球大学 公開日: 2019-03-29 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: Kyan, Akira, 喜屋武, 享 メールアドレス: 所属: |
| URL | http://hdl.handle.net/20.500.12000/44047 |

平成31年2月15日

琉球大学大学院

保健学研究科後期課程委員会 殿

論文審査委員

主査 氏 名 小林 潤

副査 氏 名 福島 卓也

副査 氏 名 豊里 竹彦



学位（博士）論文審査及び最終試験の終了報告書

学位（博士）の申請に対し、学位論文の審査及び最終試験を終了したので、下記のとおり報告します。

記

| | | | | | | |
|--|---|--|------------------------------|------------|--|------------------------------|
| 申請者 | 専攻名 保健学 | 氏名 喜屋武 享 | 学籍番号 | ██████████ | | |
| 指導教員名 | 高倉 実 | | | | | |
| 成績評価 | 学位論文 | <input checked="" type="checkbox"/> 合格 | <input type="checkbox"/> 不合格 | 最終試験 | <input checked="" type="checkbox"/> 合格 | <input type="checkbox"/> 不合格 |
| 論文題目 | Does Physical Fitness Affect Academic Achievement among Japanese Adolescents? A Hybrid Approach for Decomposing Within-Person and Between-Persons Effects | | | | | |
| 審査要旨（2000字以内） 学校保健関連活動と学力の関連の研究は、教育セクターのオーナーシップのもと学校保健を普及、推進する上で重要なエビデンスを創出することになり世界的にも政策的にも重要な研究といえる。特に体育は学校保健の推進のなかで重要な要素でもあり、日本の体育教育が世界的にも注目されているなかで体力と学力の影響に視点をあてた研究は新規性もあり博士号を申請するにあたって妥当性の高い研究といえる。すでに関連した先行研究はあるが、体力と学力の関連で個体間の体力の差と学力との関連についての知見が報告されているが、本研究にある個人の体力の推移が学力に与える影響は報告されておらず、この点からも本研究課題の知見の重要性が確認できる。 方法論として個体間の差異と推移両方を加味して分析ができる手法として、ハイブリッドモデルを使っている。予備審査、本審査においてこの方法が妥当な方法として選択されていることが報告 | | | | | | |

された。2年間3時点の横断研究であり3時点で個体がマッチングしている十分な数のサンプルを収集しており、科学的に十分なサンプル数であるだけでなく、サンプル収集の困難さも加味して十分に評価される内容である。体力測定については十分な客観性が保たれているが、学力については5段階評価によるスコアを使用しており客観性が保たれているかが疑問点としてあげられた。国際的には標準化された学力テストのスコアを使用することのほうが客観性が保たれているためによく使用されている点を考慮すると、本研究で使用されているスコアは学習態度も参考とされるために教師の主観が含まれていることは否めない。この点から日本の一般的評価方法が学力の測定に適当であるかは問題が残った。しかしながら日本国内においては標準的な評価方法であること、先行研究においてもこの評価スコアを使用しているものもあること、さらに喜屋武氏がこれを研究の限界として理解した上で日本での研究の実現可能性を加味して選択した研究方法であったことから、妥当な研究方法であったと評価した。

考察は体力の向上が学力の向上をもたらすことについて、本研究結果と先行研究の知見を兼ね合わせて十分に議論が展開されており高く評価できる。特に学力と体力の関連以外にも、これらの関連に関わる心理社会的要因、生物学的・精神学的な健康因子について、性差について討議されている。さらに日本の体育教育のありかたとして、カリキュラム内、カリキュラム外（部活動）両面について議論を展開した。また特に高く評価したい点として、最終審査においてはこれらの議論の上で体育教育のありかたについて明確に提言をし、且つ今後必要な研究についても言及したことである。今後、教育の実践に還元する研究者としての発展性が期待される。また今後初等教育、中等教育、高等教育、成人、高齢者とスポーツの推進は世界的にも進む課題で取り組むべき研究でもある。今後保健学研究科でやってみた教育学・保健学両面からの研究態度を発展させ、社会学や開発学とも融合させ、より学際的な研究を展開させていく素質もすでに備わっていると審査における質疑応答から考えられた。また国際英文誌に掲載しているだけでなく、積極的に国際学会での発表を展開しており、今後国際的な研究者としての活躍も期待したい。